

ドル為替 (東京市場)

2010.9.2

< 日足から想定される今後1週間程度の相場 >

日足は米ドルの下値圏(水色の帯)の上端を跨いで短い同事足(始値と終値がほぼ同値で実体が横線となる足形)となっています。当面は下値目処を探る展開が想定されますが、下値支持線の1つである - 2シグマ(紺色の実線)を既に跨いでいますから、これまでの相場基調に変化がないのであれば、直ぐに反騰に転じることが予想されます。

< 週足から想定される今後1カ月程度の相場 >

週足は回帰値(緑色の実線)を跨いで陰線となっています。回帰値を跨いだ後は転換しやすいタイミングとなりますが、3週連続して下降する回帰値を跨いで推移しており、週足では反騰に転じる目処が立ちません。日足が基調転換のシグナルを出すまでは、このドル安について行くしかありません。

< 月足から想定される今後3カ月程度の相場 >

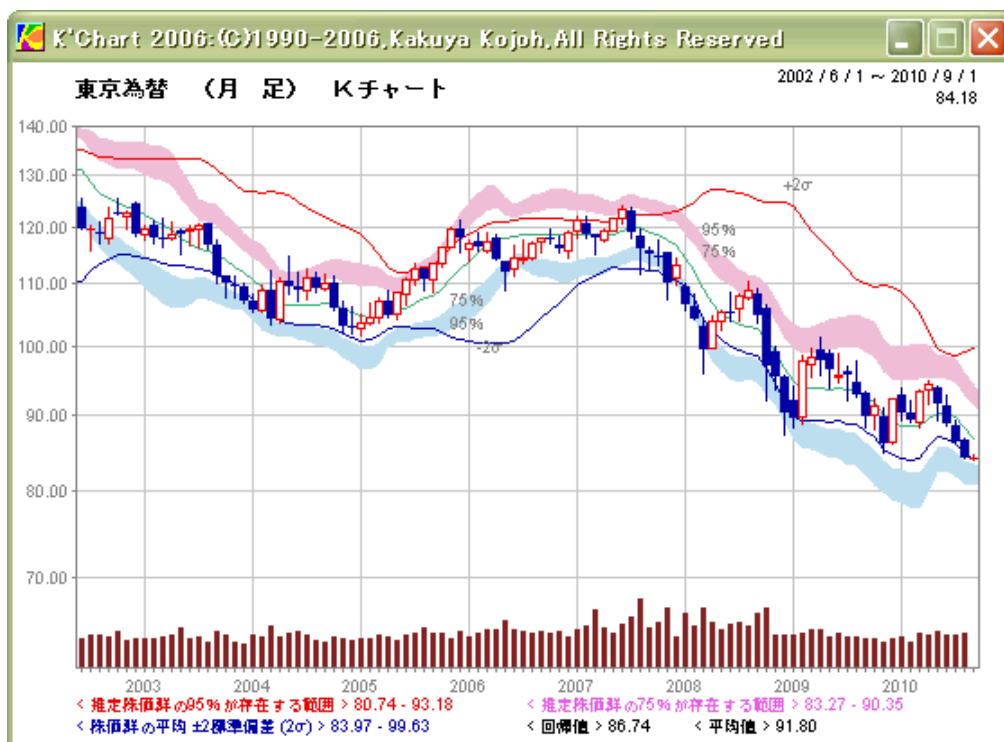
月足は下値圏を僅かに上回る位置で始まりました。当面は、一段下落して実体(ローソク足の太い部分)が下値圏に入る場面があるが想定されますが、既に - 2シグマを跨いでいる所から、このまま下値圏には到達せずに反騰に転じる可能性もあります。もし下値圏に入るようなら、月足でも米ドルの弱さを確認することになります。

成長が続くアジアや新興国、資源国で業績を伸ばす日本企業が続出する一方、欧米諸国の景気に腰折れ懸念が広がってきました。市中金利が 0%に接近している日本では、金利引き下げによる円安誘導策には限界があり、日本の政治的空白から実効のある円高対策は打てないと見透かされていることもあって、為替は対米ドル、対ユーロとも、円高方向に動いています。しばらくは円高の環境が続きそうです。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません。その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の 1.05%(税込)もしくは最低 2,625 円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものでなく、その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。